令和８年１１月１６日

百里飛行場前新交流拠点施設整備事業に関する
サウンディング型市場調査結果概要

小美玉市は、「百里飛行場前新交流拠点施設整備事業」（以下、「本事業」といいます。）に関して、本事業を円滑かつ確実に進めるとともに、地元企業の活用や百里飛行場周辺の賑わい創出など、地域の活性化に資する事業となるよう、サウンディング型の市場調査を実施しましたので、結果概要を公表します。

本調査にご協力いただいた民間事業者の皆様には厚く御礼申し上げます。

１．スケジュール

実施要領の公表	令和８年８月６日（木）
アンケート回答の受付	令和８年８月６日（水）から８月２５日（火）まで
対話ヒアリング	令和８年９月７日（月）から１０月５日（月）まで
実施結果概要の公表	令和８年１１月１６日（月）

２．調査の内容

（１） 調査の対象者

市内・県内外の設計または施工会社で、参加の意向がある法人を対象としました。

（２） アンケートの主な内容

① 本事業への参加について
② 参加形態について
③ 本事業を円滑かつ確実に進めるための発注区分・事業範囲の設定について
④ 本事業における地域貢献策について
⑤ 実績の有無について
⑥ 公募条件に関する意見について
⑦ 選定（提案）期間等に関する意見について
⑧ 展示計画との調整について
⑨ 施設運営者との調整について
⑩ 建設業界の状況等について

３．参加者

（１） ＷＥＢアンケート

実施期間　：令和８年８月６日（水）から８月２５日（火）まで
回答数　　：５３社　市内施工会社：　４社
　　県内施工会社：　５社
　　県外施工会社：１８社（うち１社、遊具会社）
　　県内設計会社：　４社
　　県外設計会社：２２社

（2） 対話ヒアリング

実施期間　：令和８年９月７日（月）から１０月５日（月）まで
参加数　　：２４社　市内施工会社：　２社
県内施工会社：　３社
県外施工会社：　６社（うち１社、遊具会社）
県内設計会社：　３社
県外設計会社：１０社

４．アンケート及び対話ヒアリングの概要h

① 本事業への参加について	
１）関心の有無	・対話ヒアリングに参加いただいた事業者からは、ＤＢ方式においても参加意向があるという回答を多くいただきました。
２）参加を検討する条件	・発注方式および参加資格を気にされている事業者が多いことが確認されました。 ・参加しやすい条件として、市内事業者とのＪＶ組成の要件の緩和を希望する意見が複数ありました。 ・評価は価格でなく、提案力を重視するのが望ましいという回答が複数ありました。
３）本事業期における繁忙度	・多くの事業者が、設計業務、施工業務ともに繁忙度が高いという回答をいただきました。
② 参加形態について	
１）単独／ＪＶ（設計会社・施工会社）	・単独、設計会社とのＪＶ、複数の設計会社と施工会社とのＪＶなど、事業者により回答が分かれました。
③ 本事業を円滑かつ確実に進めるための発注区分・事業範囲の設定について	
１）建設工事と造成工事との一体的発注	・建設工事と一体で発注することで、工程調整や施工管理の一元化が図られ、工期短縮や仮設設備の共有などによる効率化が期待できると回答する事業者が多いことが確認されました。
２）建設工事と外構工事との一体的発注	・建設工事と一体で発注することで、工期短縮（建物と外構の工程を一体で調整できる）と設計の整合性向上（建物と外構の動線・排水・景観・安全計画を統合的に検討することができる）を期待できるという意見が複数ありました。
３）業務範囲に展示計画を含める場合	・建築設計に必要な情報を受領できれば、展示設計や制作が業務範囲外であっても、合理的な設計を行えるという意見が複数ありました。
④ 本事業における地域貢献策について	
１）地域経済貢献の手法	・地域経済への貢献として実施可能な手法について、市内事業者とのＪＶ組成、市内事業者への下請発注を選択する事業者が多いと確認されました。 ・市内事業者とのＪＶ組成が難しいとする回答も見受けられました。

２）市内事業者の活用方法	・本事業での市内事業者の活用に向けて考えられる手法として、市内事業者とのＪＶ組成以外にも、市内事業者への下請け発注を選択する事業者が多いと確認されました。
⑤ 実績の有無	
１）ＤＢ実績の有無	・各事業者から実績をご提示いただき、多くの事業者にＤＢ事業の実績があることを確認できました。
⑥ 公募条件に関する意見	
１）選定方式	・ＤＢ事業における選定方式として、プロポーザル方式が望ましいという意見が多いことが確認されました。
２）市内事業者とのＪＶ組成	・市内事業者とのＪＶ組成を参加資格要件とした場合に、その要件のために参加を見送ることになる可能性があるという回答が、複数ありました。
３）評価項目	・望ましい評価項目として、企業の実績、技術提案を選択する事業者が多いと確認されました。 ・技術者不足が顕著な状況であり、技術者の実績を評価項目として設定する場合も、ウェイトを高くするのは望ましくないという意見が複数ありました。
⑦ 選定（提案）期間等に関する意見	
１）提案書のボリュームと提案期間	・公告から入札まで、３．５か月程度が望ましいとする回答が多く見受けられました。
２）技術対話の有無	・事前に技術提案内容及びＶＥ提案内容に係る対話を実施するのが望ましいという回答が多く見受けられました。
⑧ 展示計画との調整について	
１）展示設計の望ましい参画時期	・展示設計者との早期連携が事業の品質・工期・コストに影響するため、基本設計段階からの参画が望ましいという回答が多く見受けられました。
⑨ 施設運営者との調整について	
１）提案書のボリュームと提案期間	・施設計画と運営計画の整合を図ることで、開業後の利便性が期待できるため、基本設計段階からの参画が望ましいという回答が多く見受けられました。
⑩ 建設業界の状況等について	
１）懸案事項	・物価高騰、技術者（職員・社員）不足、下請事業者（サブコンなど）の協力を選択する事業者が多いと確認されました。

５．今後の予定等について

今回の調査結果も踏まえ、今後のＤＢ事業の発注に向けて、参加資格要件や評価基準、発注条件等の検討を進めています。なお、本調査でいただいた全てのご意見を反映できない場合があります。